

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

|                  |                   |
|------------------|-------------------|
| 平成 26 年 12 月 2 日 |                   |
| 所属部局・職           | 野生動物研究センター・修士課程学生 |
| 氏名               | 松島 慶              |

|  |
|--|
| <b>1. 派遣国・場所</b> (〇〇国、〇〇地域)  |
| ブラジル、アマゾナス州マナウス市   |
| <b>2. 研究課題名</b> (〇〇の調査、および〇〇での実験)  |
| アマゾン川流域周辺のココノオビアルマジロの生態研究  |
| <b>3. 派遣期間</b> (本邦出発から帰国まで)  |
| 平成 26 年 10 月 8 日 ~ 平成 26 年 11 月 28 日 (52 日間)   |
| <b>4. 主な受入機関及び受入研究者</b> (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)  |
| 国立アマゾン研究所 (INPA)、Vera da Silva 博士  |
| <b>5. 所期の目的の遂行状況及び成果</b> (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)   |
| 写真 (必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの) の説明は、個々の写真の直下に入れること。<br>別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。   |
| <b>[概要]</b>  |
| 今回の渡航の主な目的は、実際にどういった調査を行うかを決定すること、またカウンターパートの依頼を行うことであった。ブラジルの生活に慣れること、様々な独自の生態系を見ること、現地の学生らとの交流を行うことなども目的とした。   |
| 滞在期間中、INPAの Vera da Silva 博士と Wilson Spironello 博士の協力により、Reserva Ducke 保護林における調査に随行することができ、アマゾン川流域の熱帯雨林を実際に自分の目でみる事ができた。また、Wilson Spironello 博士の研究室の学生らと意見交換を行うことができた。彼らの協力もあり、今後、研究を行っていく上での指針をある程度決定することができ、また、Wilson 博士にカウンターパートを依頼する運びとなった。            |
| 帰国後は、来年実際に調査を行うに当たって必要となるプロポーザルや各種申請書類の作成、各種機材の準備を行う予定である。   |
| <b>[内容]</b>  |
| ・ Wilson 博士との面談  |
| Vera 博士に、Wilson 博士をご紹介いただき、面談を重ねることができた。Wilson 博士は、世界各地で生態調査を行っている TEAM というプロジェクトのマナウス地域のチーフを勤めている。ここでは現在 3 つの保護林 (ZF2、ZF3、Reserva Ducke) にカメラトラップを設置し、生息する動物を撮影、特定するという調査を行っている。  |
| Wilson 博士と面談を行った際、面談翌日からラボに通って学生らと相談することを提案していただき、さらに学生らに私のことを紹介して下さった。その日以降は Wilson 博士の研究室に通うこととした。学生の中にはそこに住む小型・中型哺乳類を対象に研究を行っている人もおり、アルマジロを専門としている学生はいないものの、参考になる話が聞くことができた。  |
| また、まだ実際のアマゾン熱帯雨林を見たことがないと報告したところ、11/3-11/7 に行う Reserva Ducke の調査への同行の許可をいただくことができた。  |
| ・ TEAM による Reserva Ducke 調査 (11/3-11/7)  |
| TEAM では、各保護林にグリッド状にトレイルを作成し、定期的にカメラトラップを設置し、定期的な生息動物の調査を行っている。今回の調査では、Reserva Ducke の一部地域のカメラトラップの設置を行った。  |
| 滞在期間中は、他の 3 人のメンバーと同行し、保護林内のキャンプで寝泊まりした。活動内容自体は、トレイルを歩き、決められた各地点まで移動し、各地点にて、カメラの設置、周囲の環境の土壌の厚さや果実の採集を行うというシンプルなものであった。しかし、直線のトレイルとなっているため、地形を無視したようなハードな道も多く、さらに範囲も広大なため、かなり体力を使う仕事であった。逆に、トレイルを歩き続けるだけで、様々な地形に出会えるため、川沿いの湿った土地から、少し高くなっている土地まで広く見ることができた。 |
| <平成 26 年 5 月 28 日制定版> 提出先: <a href="mailto:report@wildlife-science.org">report@wildlife-science.org</a>  |

## 「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

調査の傍らで、自身の調査に繋げるようなものも観察した。熱帯雨林中でのアルマジロを含めた小・中型哺乳類は観察が難しいため、巣穴に注目して研究を行ったかどうかと考えていたため、トレイル周囲で見ることができる地面にあいた穴に注目した。雨量も多い地域のため、木の根元には穴が開いていることも多かった。単に陥没した場合もあるだろうが、動物が掘ったであろう穴も多く存在した。穴のサイズは小さいものから大きいものまで広く存在し、多くの種類の動物が穴を掘って生息していることが実感できた。このため、巣穴を用いた調査を行う場合、その巣穴の持ち主がどの動物なのかということを知ることが大変重要であると考えられる。

### ・ブラジル国内の自然について

赤道がすぐ側に通るマナウスでは、日本では見ることができない植物相を見ることができる。また、多くの動物たちもそこに生息している。普段滞在していたINPAには、Bosque da Ciência (ボスキ・ダ・シエンシア) という一般向けの公開地域があり、マナティやオオカワウソなどといった現地の動物が飼育、展示されている。それに加え、野生状態で生息するアグーチやリスザルなども見ることができる。

また、黒い水の流れる川の黒い滝や、黒い水の流れる川と白い水の流れる川、その2本の川が合流しアマゾン川となる合流地点 (meeting point) といった観光地もある。今回の渡航では、そういった特色のある川の様子を見に行ったり、アマゾンカワイルカと一緒に泳いだりといった経験をする事ができた。

### [総括]

今回の渡航は、十分な事前準備ができず、今後の調査にきちんと繋げることができるかどうか大きな不安を抱えた状態での渡航であったが、結果としては、カウンターパートを依頼することができ、次回の渡航に向けた話し合いを重ねることができた。また、多くの学生と知り合うことができ、調査についてのアドバイスをもらうことができたと共に、大きな刺激を受けることができた。

まだこれから多くの書類作成といった準備作業が残っている。次回の渡航でしっかりとした調査ができるように、帰国後も気を引き締めていきたいと思う。



左 : Ducke でのキャンプ

右 : トレイル



巣穴と思われる穴



「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



左：ネコ科動物のものと思われる足跡



右：合流地点



左：黒い水（ブラックウォーター）の滝



右：近づいてきたアマゾンカワイルカ

6. その他（特記事項など）

ブラジル渡航にあたってJST-JICAプログラムSATREPS「“フィールドミュージアム”構想によるアマゾンの生物多様性保全」による資金面以外におけるサポートを受けています。特に研究員の山本さん、菊池さんには現地で大変お世話になりました。